

# 近年の災害が提起したハザードマップの課題 ー工学と地理学の視点からー

2016年3月21日（月・祝）13:00～16:00

早稲田大学早稲田キャンパス（日本地理学会会場）

東京都新宿区西早稲田1-6-1

ハザードマップを役立てるのは地理学者の責務でもある。過去のシンポジウムでも取り上げられてきた命題について、近年の災害のうち水害・土砂災害を事例に、実際の災害対策と深い関係にある工学の研究者とともに考える。

(1) 関根 正人(早稲田大学)

気象の極端化に伴い今後発生が懸念される東京の大規模浸水

(2) 小池 俊雄(東京大学・水災害リスクマネジメント国際センター)

災害外力と脆弱性の変化を踏まえた洪水リスクコミュニケーション

(3) 小荒井 衛(茨城大学)

ハザードマップについての理学と工学の視点からの一考察

(4) 松四 雄騎(京都大学・防災研究所)

自然地理学の知と応用地質学の技を援用する

新世代の斜面崩壊予測とハザードマッピング

<パネルディスカッション>

コメンテーター: 鈴木康弘(名古屋大学), 久保純子(早稲田大学), 岡本耕平(名古屋大学)



## 入場無料

どなたでもご参加頂けます

シンポジウムオーガナイザー: 小口千明・八反地剛・久保純子・熊木洋太

【お問い合わせ】(公社)日本地理学会事務局

TEL: 03-3815-1912 FAX: 03-3815-1672

e-mail: office@ajg.or.jp

地理院地図「治水地形分類図」を引用  
写真提供: 佐藤浩, 八反地剛